

研究 主題	和歌作品の解釈を通して自分のものの見方、感じ方、考え方を深めるための指導 － I C Tを活用した学び合いを通して－
----------	---

### 第1学年国語科学習指導案

指導月日 令和7年10月21日  
所属校名 宮城県塩釜高等学校  
氏名 青山 傑

- 1 単元名「歌物語の和歌を書き換えて、ものの見方、感じ方、考え方を深めよう」  
(大修館書店 言語文化)

#### 2 単元の目標

- (1) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。  
〔知識及び技能〕(2)イ
- (2) 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

#### 3 取り上げる言語活動と学習材

言語活動：和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする活動。

(関連：〔思考力・判断力・表現力等〕B(2)エ)

学習材：『伊勢物語』「筒井筒」(大修館書店 『言語文化』)

#### 4 単元観

本単元では「言語文化」の指導事項B 読むこと(1)オ「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。」に基づき、『伊勢物語』「筒井筒」(大修館書店『言語文化』)の作中の和歌から物語文を作成することを通して、互いの解釈の違いについて、意見を共有し合う言語活動を設定する。

『伊勢物語』は、和歌を中心として構成された「歌物語」と呼ばれるジャンルの作品である。本単元の学習材として扱う「筒井筒」には「田舎わたらひしける人の子ども」として、幼馴染みの男女が登場する。第一場面における「筒井筒～」と、「くらべこし～」の2首の和歌は、男女が互いの思いを打ち明け合い、やがて結ばれて結婚生活を送るきっかけと捉えられるものである。その後、女の親が亡くなり経済的な支えがなくなったことで、男は新たな妻(高安の女)の元に通い始めるが、第2場面における「風吹けば～」の和歌は、高安の女の元へ通う男の身を案じた元の妻によって詠まれたものである。その行動を目撃し、元の妻に愛しさを覚えた男は、次第に高安を訪れることが少なくなっていく。第3場面では、自分のもとを訪れなくなった男に対し、高安の女から「君があたり～」「君来むと～」の和歌が詠まれるが、遂に男は高安の女のもとへ通わなくなる。

語の選択や文法的表現、表現技法などの理解を通して和歌の解釈をする中で、物語の内容が地の文とは異なる位置付けで語られる「歌物語」というジャンル自体の特徴に思い至らせた。

本文の要所に挿入される和歌から物語文を作成する活動を通して、和歌を詠むに至るまでの場面や登場人物の心情を考えたり、作品内で語られていない部分について具体的に想像して補ったりするこ

とで、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えつつ、古典世界で和歌を詠むことの意味を考えさせることができる。男女の関係の在り方や、和歌の贈答によるコミュニケーションといった文化的な背景に目を向けるとともに、自らのものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化に対する自らの考えを持つことができると考え、本単元の目標を設定した。

## 5 生徒の実態 [第1学年4組40名]

本学級の生徒40人を対象にした4月の意識調査では、「古典や古文は好きか」という問いに対して、「嫌い」と解答した生徒は25人、「どちらでもない」と答えた生徒が13人、「（どちらかと言えば）好き」が2名であった。「好きではない」と答えた理由として「現代と古典の仮名遣いの違い」「言葉の意味の違い」「古文特有の言い回しの難しさ」を指摘するものが目立った。

これを踏まえ、ここまでの古典単元では、ICTを用いて生徒の多様な表現を引き出す工夫を取り入れながら、古典に対する学習意欲を高められるよう意識して授業を展開してきた。『宇治拾遺物語』の「田舎の児、桜の散るを見て泣くこと」「児のそら寝」を学習材とした単元では、共有ノートを用いてグループで協働しながら現代語訳を作成する活動や、スライドを用いた4コマ漫画の作成などを行い、説話のおもしろさを味わうことをねらいとした。また、和歌を扱う単元では、『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』から選んだ和歌の解説動画を作成する活動を行った。動画作成は2人のペアや3人のグループで行い、自分の考えを伝え合う時間を設けた。動画作成課題を通して他の生徒の解釈に触れる中で、自身の元々の考えを広げようとする姿が見られた一方、和歌を解釈することに留まり、自身の考えを深めようとする点までは至らなかった。

授業実践Ⅰ後の7月に、年度当初と同様の項目で、再度アンケート調査を行ったところ、古典や古典学習について、「あまり好きではない」「嫌い」と回答した生徒はそれぞれ5名、2名に減少し、「どちらかと言えば好き」が9名、「好き」が8名と増加していた。「どちらかと言えば好き」および「好き」と回答した生徒の中には、文法事項の定着により古典が読めるようになった実感や、グループワークなどを通じた協働的な学びによって古典への理解が深まったことを理由として挙げていた。ただし、同質問項目については、ICT機器の活用を通じた学び合いに限定して質問しておらず、必ずしもICT活用の効果を示したものにはなっていない。

解説動画の作成にあたり、「恋」や「別れ」を題材とした和歌を選んだ生徒が多いことから、主人公の「男」を中心とした恋愛の要素をもつ『伊勢物語』は、非常に親しみやすい題材であると思われる。

既習事項については、古文を読むための知識や文法として、歴史的仮名遣いのほか、動詞の活用、係り結びの法則、助動詞（打消、過去、完了、推量、意志、反実仮想）について学習している。

## 6 指導観

本単元では、多様な意見や考え方の可視化、という目的でICTの活用場面を設定し、生徒同士の学び合いを通して古典作品への解釈を広げ、自らのものの見方、感じ方、考え方を深めさせたい。

第1次において本文全体を通読し場面ごとの概要を把握した後、第2次では、作中の和歌を基に400字～600字の短編の物語文を書く。和歌が詠まれた具体的な場面や、登場人物の心情、単語や文法的な表現、和歌の表現技法などに注目しながら、そのシーンを再現する物語文を作成する。その後、作成した物語文に対して生徒間で相互評価を行う。相互評価のコメントは「この物語を表す一言は何か」「自分の解釈との違いや共通点」とした。物語文の作成に加え、他の生徒のものの見方、感じ方、考え方にも触れることで、古典作品の行間には多様な解釈の余地があることに気付かせるとともに、和歌を中心とした物語展開がどのような効果を持つのか、という点についても思い至らせたい。

第3次では、他の生徒からの感想やコメントからテキストマイニングによる語群を生成する。語群の中から、①最も登場頻度の高かった語句、②最も気になった語句の2つをキーワードとして抽出し、自身の学習を振り返るためのキーワードに設定する。生徒相互にコメントを伝えて学び合う活動にテキストマイニングを加えることによって、単元の活動を振り返りながら考えを深めるための最適なキ

ワード選択ができると考えた。

〔知識・技能〕〔思考力・判断力・表現力〕の評価については、物語文の記述内容を基に行い、〔主体的に学習に取り組む態度〕の評価については、物語文の作成とキーワードの抽出によって、自身のものの見方、感じ方、考え方がどのように深まったのか、という点についてワークシートの振り返りを基に行う。

和歌のシーンを再現する物語文作成と、個人ごとのキーワードによる振り返りを通して、歌物語における和歌の解釈の幅広さや、古典世界における和歌を詠むことの重要性について、自らの考えを形成させるとともに、作品に対する自身の解釈を広げつつ、ものの見方、感じ方、考え方を深めることを目指す。

## 7 研究主題との関連

研究主題である「和歌作品の解釈を通して自分のものの見方、感じ方、考え方を深めるための指導」に迫るための手立てとして、本単元のICT活用場面を以下のように設定した。

### (1) 作成した物語文の効率的な共有

オンライン授業支援ソフトを用いて、個人が作成した物語文を生徒間で共有する。

### (2) 即時的な相互評価のフィードバック

学び合いのための自身の成果物に対する感想・コメントなどの相互評価を即時に収集するとともに、オンライン表計算ソフトに集約する。

### (3) 多様な意見や考え方の可視化・焦点化

オンライン表計算ソフトに集約された相互評価資料を基に、テキストマイニングを生成し、キーワードとして可視化・焦点化し、自身の学習の調整のために活用する。

## 8 単元の指導と評価の計画

### (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 (2)イ)	①「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。(B(1)オ)	① 学習の見通しをもって、作中の和歌を書き換えることを通して、進んで自らのものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ中で、自らの学習を調整しようとしている。

### (2) 単元の全体計画（7時間扱い 本時7／7）

次	時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	1	○単元の目標や進め方、取り組む課題を確認するとともに、和歌のシーンから物語文を作成することで、我が国の言語文化についての自らのものの見方、感じ方、考え方を深めるといふ学習の見通しを持つ。	[知識・技能] ①	「記述の確認」
	2	○『伊勢物語』の成立と歌物語というジャンルについて学習する。 ○本文全体を通読し、 <b>場面1～3</b> に分ける。		

	3	○場面1～3の内容を読み取り、表現、文法について学習する。 ○第1次の学習について振り返る。 ○作中の和歌から、物語文に書き換える和歌を1つ選ぶ。		
2	4	○第1次で選んだ和歌について、和歌が詠まれた具体的な場面や、登場人物の心情の変化に注目しつつ、その時の登場人物同士のやり取りについて想像し、短編の物語文(400～600字)を作成する。	[思考・判断・表現] ①	「記述の確認」
	5	○選んだ和歌について、作品中での役割や位置付けについて考える。		
	6	○お互いの書いた物語文を鑑賞し、次の観点で相互にコメントする。 ①この物語を表す一言 ②自分の解釈との違いや共通点 ○他の生徒の物語文を読んだことを踏まえて、第2次の学習について振り返る。		
3	7	○テキストマイニングを生成し、語群の中から特に気になった語句を1つ選びキーワードとする。 ○キーワードを基に、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を深めるためのワークシートに取り組む。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の確認」

## 9 本時の計画

### (1) 目標

古典の世界に親しむために、歌物語の作中の和歌についての物語文を書くことを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を、深めることができる。[主体的に学習に取り組む態度] ①

### (2) 本時の指導に当たって

単元の第3次、7時間目に相当する本時では、自身の解釈と選択したキーワードを踏まえた学習の振り返りを通して、我が国の言語文化についての自らのものの見方、感じ方、考え方を深めるための学習を行う。生徒は第2次において、「筒井筒」の和歌から一つを選んで、和歌が詠まれた場面を具体化して描写したり、作中では直接描かれていない登場人物の心情に踏み込んで物語の形式に構成し直ししたりしている。作成後の物語文は互いに共有し、「この物語を表す一言」、「自分の解釈との違いや共通点」の2点についてコメントを収集している。

本時の導入部分では、どのような観点で自らのものの見方、感じ方、考え方を深めるか、について焦点化を行うためのテキストマイニングを生成する。収集したコメントの一覧を基に生成した語群から、①最も登場頻度が高かった語句 ②特に気になった語句 に注目させ、キーワードとして選択させる。

「語群からキーワードを選んで、作品についての解釈や、我が国の言語文化についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深めよう。」という指示のもと、物語文作成時と、相互評価を経た後での解釈の変化や広がり、それを踏まえた自分自身のものの見方、感じ方、考え方の深まりについて問う内容で課題に取り組ませたい。

振り返りのキーワード設定が思うようにできずに時間を要する生徒のために、キーワードの設定の際には、登場頻度が高かった語句だけでなく、特に気になった語句についても注目させ、的確なテーマが設定できるように声掛けを行う。本時の評価規準が「主体的に学習に取り組む態度」であることを踏まえ、第2次における物語文作成時点と、キーワードを用いた学び合いで前後における、自分自身のものの見方、感じ方、考え方の深まりを見取することを説明して課題に取り組ませるようにしたい。



	<p>○課題3の取り組み方の留意点について説明する。</p> <p>◆ウェビングを使って、キーワードから考えを広げてみよう。</p> <p>◆高安の女の言動が男を「幻滅」させたけれど、古典世界の価値観とはどのようなものだろう</p> <p>◆キーワードを再設定して、もう一度考えてみようかな。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェビングやグラフ等による図示、疑問を書き出すなどの手法を用いてよいことを伝える。</li> <li>・一度選んだキーワードでも、振り返りの内容や状況に応じて選び直してよい。</li> <li>・記述については、文章表現や構成、語彙の正確さのみに意識が集中しないよう、キーワードから自身の学びを深めさせるための声掛けを行う。</li> <li>・全体に共有する生徒の記述をいくつか選んでおく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定したキーワードを基に、進んで自らのものの見方、感じ方、考え方を深めようと、学びを調整することができているか、点検する。</li> </ul>
結末7分	<p>6 生徒の課題のうち、2～3人を取り上げ、ものの見方、感じ方、考え方をどのように深めているかについて、全体に共有する。</p> <p>7 本単元の学習について振り返り、次の単元の学習に生かしていくことを確認する。</p>	一斉  一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個人の端末に画面共有をする。</li> <li>・実際の記述を例示しながら具体的に確認する。</li> </ul>	

(4) 本時の評価

評価の観点	具体的評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する生徒への手立て (C)
主体的に学習に取り組む態度	作品における和歌の役割や位置付け、古典世界で和歌を詠むことの意味を考える上で、設定したキーワードを基に、進んで自らのものの見方、感じ方、考え方を深めようと、学びを調整することができている。	作品における和歌の役割や位置付け、和歌を詠むことの意味について気付いたことや、考えの変容について、歴史的・文化的背景に基づいて具体的に表現したり、作品の記述に立ち返って思考の過程を整理したりしながら、自らのものの見方、感じ方、考え方を深めようと、学びを調整することができている。	自らの解釈について改めて整理させるとともに、状況に応じてキーワードの再設定や語群の再生成をするなど、個別に声掛けを行いながら作成させる。

(5) 準備物

- ① 教師：教科書、ワークシート、タブレット（ロイロノート）、プロジェクタ
- ② 生徒：筆記用具、教科書、タブレット（ロイロノート）、国語便覧

(6) 板書計画

<p>・タイマーの表示</p> <p>【プロジェクトに投影】</p>	<p>キーワードを設定して単元の振り返りを行い、作品についての解釈や、我が国の言語文化について自分の見方、感じ方、考え方を深めよう。</p>
------------------------------------	--

<p style="text-align: center;">↓選んだ和歌どれか1つに○</p> <p>④ 筒井筒 井筒にかけしまらかたけ 過ぎにけらしな 妹見ざるまた ⑤ 風吹けば 沖つ白波たつた山 夜半にや雷がひとり越ゆらむ ⑥ 君があたり見つを語らむ生駒山 雲な隠しそ雨は降るも</p>	課題	伊勢物語 「和歌を物語化（ノバライズ）する」
	氏名	年 組 番
<p>■ 評価</p> <p>【A】以下をすべて満たす。自分の解釈をもとに、和歌が詠まれたシーン（場面や状況、心情など）を詳しく想像して振り下げて描写している。 【B】自分の解釈をもとに、和歌が詠まれたシーン（場面や状況、心情など）を想像して広げている言語文化的な背景を意識しながら物語化できている。 【C】Bに達していない。</p> <p style="text-align: right;"><small>※この欄は先生記入欄です。</small></p>	<p>■ 和歌をこんな風に解釈したよ。</p>	<p>■ この和歌は、「筒井筒」の中でどのような位置づけ・役割を果たしていると思う？</p> <p>■ ノバライズするとき意識したこと</p>

ワークシート7

▼古典作品や古典の文化について分かったことを書こう。

▼「筒井筒」や作中の和歌について自分の考え（考えの変化）を書こう。

キーワード

▼ここまでの学習に対する感想を書こう。

テキストマイニングからキーワードを設定して、作品についての解釈や、我が国の言語文化についての自分のものの見方、感じ方、考え方を深めよう。